

# 市民病院の病棟紹介

## ～急性期病棟～



津島市民病院は急性期病棟だけでなく、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟といった病棟もあり、患者さんの状態に応じた入院治療に対応しています。

今回は、こうした病棟のうち市民病院の主な役割を担っている急性期病棟について紹介します。

問合 市民病院管理課管理G ☎28-5151(内線2201)

### 急性期病棟とは？

急性期病棟は、急な病気やけがのほかに持病の悪化など、重症で緊急に治療を必要とする患者さんが、入院や手術、検査などの高度で専門的な医療を行う病棟です。

急性期病棟では、できるだけ早く症状を安定させるために、入院の原因となった病気やけがの治療を集中的に行いますので、この病棟での入院期間は平均では11日前後です。入院してきた時は意識もなく人工呼吸器を付けていたのに、元気に歩いて退院するということも珍しくありません。

急性期の治療が概ね終わり、状態が安定すれば退院し、自宅で療養することとなりますが、在宅復帰に向けた生活支援やリハビリテーションが必要な場合は、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟で治療を続けます。これらの病棟については、次回以降に紹介します。

今回紹介する急性期病棟も、市民病院ではHCU(ハイケアユニット)病棟と、一般急性期病棟に分かれています。

### HCUとは？

HCU(ハイケアユニット)とは高度治療室とも呼ばれ、ICU(集中治療室)と一般病棟の間に位置付けられています。市民病院では、平成29年11月

から5階南病棟40床のうち7床をHCU病棟として稼働しています。

この病棟では、救急外来からの緊急入院時や手術直後で呼吸や循環が安定していない患者さんなどが入院しています。そのため、医療スタッフが全ての患者さんを見渡せるよう造りで、常に患者さん4人に対して1人以上の看護師を配置して(4対1看護)、他の病棟よりも手厚い看護を行っています。また、重篤な患者さんも多いことから患者さんへの面会も制限をしています。



# 一般急性期病棟とは？

一般急性期病棟はHCU病棟に入院するほど重篤ではありませんが、手術が必要であったり状態が悪化して専門的な検査や治療が必要な患者さんが入院する病棟です。

一般急性期病棟は3階南病棟、3階北病棟、4階北病棟、5階南病棟、5階北病棟、5階西病棟の6病棟で、全部で269床です。どの病棟も複数の診療科の患者さんが入院する混合病棟で、様々な病気や年齢の方が入院されています。3階南病棟は、産婦人科病棟でもあり、女性専用の病棟として出産される方への配慮をしています。

看護師は、患者さん7人に対して1人以上の配置（7対1看護）であり、HCU病棟の4対1看護と比べると少ないですが、一般急性期病棟としては最も手厚い配置基準を満たしています。

今年度上半期（平成30年4月～9月）のHCU病棟と一般急性期病棟を合わせた急性期病棟（7病棟）では、毎日の入院患者数の累計である入院延患者数は昨年よりも1100人ほど多い4万3997人でした。また、新たに入院された患者数は3587人で昨年よりも271人多く、より多くの患者さんの治療を行うことができました。

市民病院は、この地域の医療を守る

要として、「地域に必要とされ、なくてはならない病院」を目指しています。そのためには急性期医療にしっかりと対応し、一人でも多くの患者さんの治療を行っていきます。

病棟	病床数	各病棟の特徴
3階南病棟	35床	産婦人科病棟でもあるため、新生児から高齢の患者さんまで、幅広い年齢層の方が入院される女性病棟です。
3階北病棟	50床	子どもの肺炎、喘息、感染症や骨折、皮膚腫瘍、眼瞼下垂、脳梗塞など年齢も病状も様々な患者さんが入院されます。回復すると、自宅へ戻る方もいれば、症状に合わせて回復期リハビリテーション病棟やリハビリ可能な他病院へ転院される方もいます。
4階北病棟	51床	内視鏡を使ったがんやポリープの切除や検査・処置、冠動脈形成術・ペースメーカー移植などの急性期医療から、がんの終末期医療まで行っています。また、中耳炎、扁桃炎などの手術入院もあります。
5階南病棟	33床	5階南HCU病棟と同じフロアになります。周手術期と呼ばれる手術前や手術後の患者さんが多くいます。
5階北病棟	51床	くも膜下出血・脳梗塞や肺炎・喘息や白内障の患者さんなどが入院される病棟で、高齢の患者さんが多くいます。
5階西病棟	49床	慢性呼吸不全・喘息、带状疱疹、糖尿病や腎不全などの患者さんの教育入院や治療入院をされる方が多くいます。

## 急性期病棟と主な診療科

